

2008日本自動車殿堂 歴史車

日本の自動車の歴史に優れた足跡を残した名車を選定し 日本自動車殿堂に登録して永く伝承します

Cars that blazed the trail in the history of Japanese automobiles are selected, registered at the Hall of Fame and are to be widely conveyed to the next generation.

スズキ スズライト

SUZUKI SUZULIGHT





1955年(昭和30年) スズライトSS型 (SUZULIGHT SS MODEL 1955)

スズキ スズライトの沿革

1954年1月~2月	外国車3台を購入・研究		
1954年 3 月	試作車の設計図が完成		
8月	シャシーに360ccエンジンだけを搭載した		
	試作車が完成		
9 月	ボディが完成し試作 1 号車が誕生		
10月	試作2号車が完成し、2台で箱根登坂		
	テスト決行		
1955年 4 月	改良型の試作 3 号車が完成		
7 月	運輸省からの正式認定がおりる		
10月	スズキ初の軽四輪車スズライトを発売		
	販売価格は乗用車42万円、ライトバン39		
	万円、ピックアップ37万円。1955年は28台		
	を生産		

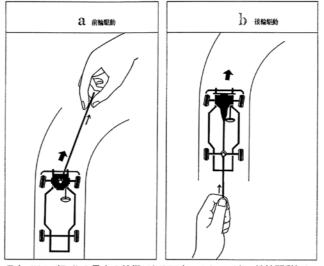
スズライトの主要諸元

シャシー形式	_	エンジン形式	2サイクル空冷2気筒
全 長	2,990mm	ボアXストローク	_
全 幅	1,295mm	総排気量	359cc
全 高	1,400mm	最高出力	18ps/4,200rpm
ホイールベース	2,000mm	最大トルク	3.2kg-m/3,200rpm
トレッド	1,050mm	燃料消費率	_
車両重量	510kg	変 速 機	_
乗車定員	-	荷台長	_
最大積載量	-	幅	_
最高速度	-	高	_
駆動システム	FF	燃料タンク容量	180(混合ガソリン18.1:オイル1)
タイヤサイズ	4.50—14	ミッション型式	選択摺動常時噛合式 前進3段
価 格	39万円	サスペンション型式	前リーフスプリングー十ショックアブソーバー作
			後リーフスプリングー十ショックアブソーバー作

※主要諸元データはスズライトのライトバンSL (1959年式) モデル



乗用車としても使用でき、荷台も確保していたスズライトのライトバンモデル。 前輪駆動方式や、2トーンカラーを採用するなど、今日に至る軽自動車界の パイオニアであった



日本ではスズライトの最大の特徴であるFF(フロントエンジン・前輪駆動)は、フォルクスワーゲンのRR(リアエンジン・後輪駆動)や国産車のFR(フロントエンジン・後輪駆動)に対して、デビュー当初から異端児であった。同じFFを採用した国民車のシトロエンやオースチン・ミニが輸入されても状況は変わらず、わが国でFFが本格的に普及したのは1970年代に入ってからである。上のスズライトのカタログでは、左図のFFなら、進行方向に駆動力が働くが、右図のFRやRR車は、押された方向へ進むとは限らないと説明し、FFは駆動力が有効に利用できると図解している

軽自動車の先駆、スズライト

日本における軽自動車規格は、世界に例のない独自の規格であり、 戦後日本のモータリゼーション発展には、軽自動車が大きな貢献 を果してきた。また近年の二酸化炭素の排出が原因とされる、世 界的なレベルでの地球温暖化や不安定な原油価格などにより、 日本では今まで以上に経済的なクルマへの関心が高まり、軽自 動車への需要は一段と広がりを見せている。

過去から現在まで軽自動車メーカーとして名を馳せている「スズキ」は、1909年10月に鈴木式織機製作所として、鈴木道雄によって創業された。1920年には株式会社となり、企業として着実に地歩を固めた鈴木道雄は、それまでの織機事業からの転換を図るために、率先して自動車産業への挑戦を宣言したのである。当初スズキの技術陣は、軽便な二輪車の研究開発から進め、次第に念願の自動車産業への転換を図っていった。1954年には、研究用にフォルクスワーゲン、ロイト、シトロエンの3台の外国車を購入、技術者の鈴木三郎を中心に、これらのクルマを徹底的に研究し、同年の9月1日にはスズライトの試作1号車が完成。そして1955年10月には、乗用、ライトバン、ピックアップなどの3種類のボディデザインのスズライトの発売が開始されている。

スズライトはスズキ初の四輪自動車であるだけでなく1954年の規格変更で排気量が、エンジン形式にかかわらず360ccに統一されて以来、初の軽自動車規格の車であった。また量産車では日本で始めて前輪駆動(FF)を採用するなど、技術的な面でも特筆すべき点が多かった。さらに追従するように富士重工業、東洋工業、三菱なども軽自動車の開発に着手し、1960年代に軽自動車のブームが巻き起こることになるが、まさにスズライトはその先駆であり、パイオニアであった。

スズライトの名称の「スズ」は鈴木の略であり「ライト」は"軽さ" という意味だけでなく、さらに"光明"という思いを込めて命名したという。まさにスズライトは、現代に継承されているスズキのパイオニア精神を具現化した最初のモデルであった。

(小林謙一)



量産効果を出すために、一車種集中方式を採用。乗用車スタイルながら、折りたたみ式の補助席をもった、定員3人十200kgのライトバンSLに生産が絞られた